

株式のビッグバーンを求めて

NYダウの新高値が続いていました。今回の米国の株式の上昇はイエレン副議長がFRBの議長に指名された所から出発しています。宇宙でいえばビッグバンです、人間でいえば赤ちゃん誕生です。少年期青年期老年期を経て、11月中旬イエレン次期議長は21日に承認へと事実上、議長が確定した事は、宇宙の死ビッグリップであり、人間の死を意味します。目先の天井です。宇宙の生と死の関係が株式市場も適応して読む事ができます。こんな雄大な勉強会が株式マスターズです。

ともあれイエレン氏は指名以後ずっと沈黙を守っていて、米国の公聴会で「回復への道のりは長い」と述べ責任的な金融緩和路線を継続する考えを始めて表明しました。曲者のイエレン氏は量的緩和策を継続すると表面上は唱えながら。実質はドル還流策を企図しているのです。

イエレン氏の指名から世界で起きた出来事を見ると、まず日本のみずほ銀行の暴力団への貸付が暴露され、中国では天安門広場では、欧米に活動拠点を持つウイグル族による自爆テロが起きました。時をおかずにイスラエルの戦闘機がシリアの港湾都市であるラタキア付近にある空軍基地を攻撃しました。日本、中国、中東での出来事です。これらの国々は米国国債の購入先のベスト3です。

日本にはメガバンクを筆頭にして米国債の購入を暗に迫ってきます。中国では地盤のまだ確立していない習近平政権を揺さぶり、米国債の購入を働きかけています。

中東産油国の潤沢な資金はシリアへの攻撃により、中東産油国のサウジアラビア、イラン、イラク、クウェートなどの国々は、安全な米国へ資金移動を促す効果が絶大です。世界の資金を還流させる為にイエレン氏は、007（ゼロゼロセブン）の如く米国の諜報活動を駆使して世界中を混乱させて、安全な米国へ米国へと資金を集める作戦のようです。イエレン氏は「何も言えれん」と、名前の通りの秘密主義で、金融をコントロールしようとしています。

日本でも秘密を漏らした公務員への罰則を強化する秘密保護法案の制定も、日本の国家安全保障の見地から米国に振り回されないようにしているようです。次は米国から何処へ資金が移動するのか、しばし様子見です。新たな投資先が見つかるまでしばし相場も休憩するところです。

ユーロが買われるか？日本が買われるか？商品が買われるか？を見定めてから出動して行きたいものです。円の流れは円安傾向が続いていくのですが、対抗にユーロになるか、ドルになるか、商品になるか？

次のビッグバンを見つけて投資して行きたいものです。



平成25年11月20日
(株式講演家 三木文佑)

株式講演会の出張講演致します。
少人数でも喜んで。

090-5154-0515

